



第三案を「まず」提案・審議させて下さい！

	請求者 (2号議案)	執行部 (1号議案)	第三案
司法試験合格者数	直ちに1500人にし、可及的速やかに1000人以下にする。	まず早期 に1500人とする。	年間1500名 以上 輩出されるようにし、かつ、現在の年間1800名の水準を十分考慮し、急激な減少をさせない。
法科大学院制度と予備試験	受験制限や合格者数制限など、一切の制限をしない。	法科大学院制度の改善を行い、予備試験については制度趣旨を踏まえた運用をする。	法科大学院制度について奨学金をより一層充実させ、予備試験については制度趣旨を踏まえた運用をする。
修習生への経済的支援	給費制の復活を求める。	給付型の経済支援として、給費の実現・修習手当の創設を求める。	給費制の復活を求める。

第1号議案(執行部案)に修正動議(第三案)を提出します。

第三案審議には、**当日の実出席者(委任状は含まず)50名以上の賛成が必要**です。

どんな案なのか聞くためにも、動議提出にご賛同を！

修正動議提案は、1号・2号議案の趣旨説明・質疑後、「討論」の段階を予定(お待たせします)。

第三案を審議することに賛成して頂ける方は挙手を!!

修正動議採択の挙手は、執行部案・請求者案に加え第三案も審議して良いか否かを問うもので、**最終的な採決とは別です**。

審議を踏まえ、第三案への賛否が改めて問われます。



なぜ第三案なの？

執行部案は「1500」と言っており、第三案も「1500」なら同じでは？

**執行部案の1500は“まず当面”。
基本1500より更に減員させる意図**

- 提案理由第6項1で「更なる減員については検証しつつ対処」としており、減員意図は明瞭。
- 推進会議決定を「1500人程度を上回る規模の合格者数を視野に入れた記述は、現実的な基盤を欠く」と批判。
1500人を上回ることを目指さないのも明瞭。

**第三案の1500は
“下限”として明示**

- 下限を明示し安心感を与えることで、法曹志願者の回復が可能

執行部案は法科大学院制度を守るの？つぶすの？

**執行部案では法科大学院の規模の
適正化の内容は不透明**

- 執行部案は、将来的にどこまで合格者数を減らすか不明なため、適正な規模も不透明
- 合格者数減を予想⇒志願者減⇒法科大学院減、という負のスパイラルを断ち切れず、法曹志願者の質的低下を招く危険性

**第三案は“下限1500”を明示するので、それを前提とした制度設計が可能。
同時に、奨学金の充実・給費制復活を強調**